

紙を極める、紙を広める！

紙季報

し

き

ほ

う

JPA
 一般社団法人 日本ペーパークラフト協会
 Japan Papercraft Association <http://www.j-papercraft.com/>
第1号 (2012年夏号)
 会報誌 年4回発行
 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2番14号
 飯田橋KSビル2F(紙宇宙内)
 TEL:03-3513-5810(代) FAX:03-3513-5811

トップ対談…1-2

ザ・ペーパーアーキテクト…
会員セミナー…………… 3

情報交換会レポート 製紙工場見学会…
『紙ワザ大賞』第22回募集始まる…… 4

トップ対談

日本製紙グループ本社
芳賀義雄 社長

VS

日本ペーパークラフト協会
鶴田卓彦 会長

鶴田会長 私は日本経済新聞社の記者を長年経験し、その後は新聞社経営にたずさわり、日経の社長を10年余り務めました。私の人生と職業の大半は「紙」のお蔭で過ごしてきており、改めて考えてみますと、日本の歴史や文化・伝統を支えてきた「紙」に深く感謝しなければならないと痛感しています。本日は、新聞用紙の供給でも長年深い関係がある日本製紙グループ本社の社長で、この5月に紙パルプ団体の日本製紙連合会の会長に就任された芳賀義雄社長にお会いし、「紙」にまつわる色々なお話を、ざっくばらんに披露し合って有意義な会話にしたいと思いますので、よろしくお祈りします。

最初に、今、紙加工製品と言われるペーパークラフトは世界的に大ブームを呼んでいると言われ、店頭でのPOP宣伝の紙製品から産業用の段ボール資材や、日本のお城やお寺など芸術作品まで、非常に幅広い分野に渡っています。現在、日本だけでなく、世界でも大きな話題となっている「東京スカイツリー」の1000分1縮小のペーパークラフトの「東京スカイツリー」が売り出され、子供達からお年寄りまで引っ張り風になっています。

こうした世界的にも大きなブーム現象を呈しているペーパークラフト(紙加工製品)の産業や、文化・芸術、技術革新などの振興を目指して、昨年、一般社団法人日本ペーパークラフト協会が発足し、私は長年新聞社という最も「紙」に関係が深い業種のトップを務めた関係上、初代の会長をお引き受けし、微力を尽くしている次第です。



芳賀義雄 (はが よしお) 氏

株式会社日本製紙グループ本社 代表取締役社長
日本製紙連合会 会長

- 昭和49年 熊本大学大学院工学研究学科卒
十条製紙に入社(平成5年山陽国策パルプとの合併に伴い日本製紙に商号変更)
- 平成7年 石巻工場原質部長(平成15年大昭和製紙・日本紙共販との合併により日本製紙に社名変更)
- 平成16年 取締役企画本部長代理兼経営企画部長
- 平成18年 常務取締役企画本部長
- 同年 日本製紙グループ本社取締役兼任
- 平成20年 日本製紙連合会会長
- 同年 日本製紙グループ本社代表取締役社長
日本製紙株式会社代表取締役社長
- 平成24年 日本製紙連合会会長に再任

芳賀社長 お蔭様で、日本製紙グループ(旧十条製紙、旧大昭和製紙など)は、新聞用紙のトップメーカーとして、各紙と円滑な取引を継続させて頂いています。当社の主力工場は、釧路、岩沼、八代の各工場ですが、生産拠点が分散していることが強みとなっています。鶴田元社長をはじめ新聞社の皆様には、大変お世話になってきており、心から感謝しています。



鶴田卓彦 (つるた たくひこ) 氏

一般社団法人日本ペーパークラフト協会 会長
日本経済新聞社 元社長
横綱審議委員会 委員長

- 昭和27年 早稲田大学第一政経学部卒
日本経済新聞社に入社
- 昭和42年 同社東京本社編集局経済解説部長
- 昭和52年 取締役東京本社編集総務
- 昭和57年 常務取締役編集担当東京本社編集局長
- 昭和60年 専務取締役
- 昭和63年 代表取締役副社長
- 平成5年 代表取締役社長
- 平成15年 代表取締役会長
- 平成22年 旭日大綬章受賞
現在、横綱審議委員会委員長

鶴田会長 昨年3月11日に起きた東日本大震災では、御社の主力工場も震災に見舞われ、大変だったと聞いています。被災状況はどうだったか、また、その後、どのように復旧・復興してきていますか、そのあたりから対談を進めたいと思います。

芳賀社長 今度の大地震では、石巻工場という年産100万トンの主力工場が津波に襲われ、塩水でやられました。その結果、すべての生産設備が動かせなくなり、

供給責任を果たせない危機に陥りました。突然の地震と津波に襲われて、工場構内には約1,300人が働いていましたが、高台に避難し全員無事でした。従業員の皆が一致団結して復旧に努力して、現在、生産能力は計画の90%まで回復しており、今年夏には、完全復旧の予定です。構内にいた人間、誰一人も犠牲になることなくあの未曾有の大震災に対処できたことは、非常に大きな成果だったと思います。ただ、原料、生産機械、工場内の製品などの被害に機会損失を加えると、総額は1000億円にのぼっており、財務面は現在、厳しい状況にあります。

鶴田会長 この大震災を経験して、これから重要なのは、予防措置をどのように講じるかということだと思います。この点では、いかがですか。

芳賀社長 確かに、鶴田会長がおっしゃる通りで、現在工場だけでなく、グループ全体でリスクの洗い出しを行い、被害を最小限に抑えるためには何が必要かを検討しています。私は、トップとして大きく2つの点、つまり、第1は工場の従業員の安全と、生産機械の確保、第2は津波からの被害を減災する必要があると考えています。ただ、企業単独では限界があり、国や自治体の力を借りる必要もあります。しかし、石巻工場は、原料の約半分を輸入木材チップに頼っており、海外から船輸送するため、どうしても海に近いほうが有利だという条件があります。

鶴田会長 今、海外のお話が出ましたが、御社は海外に非常に力を入れていると聞いています。海外進出の目的やその戦略、また日本は国土が狭く、製紙産業全体としても、将来像を描く場合に、海外事業を重視していく必要があると思いますが、いかがですか。

芳賀社長 当社も、これまでも海外に相当力を入れてきました。昭和 40 年代から海外事業を意識して展開してきており、現在では、製紙工場を米国とカナダ及びオーストラリアに有しています。厳しい国際競争に打ち勝っていくには、海外戦略をどのように展開するかが大きな決め手です。2008 年のリーマン・ショックで紙内需の縮小が顕著なものとなりました。これは、企業の経費節減の影響が大きいと思います。前年と比べて 15～20% という大幅な減少振りとなっています。これに、今回の東日本大震災が輪をかけました。そして、私は、構造的にも、紙の需要が減少する要因があるかと思っています。それは、1 番目は「少子高齢化」で、2 番目は「電子化」であると思っています。

鶴田会長 国内の洋紙産業の現状を、芳賀社長はどのように見えていますか。中長期的に再構築する計画はありますか。

芳賀社長 私は、二つの大きなポイントがあると思います。一つは、国内の過剰な設備をどうするかです。どうしても固定費の削減が必要です。もう一つは、紙の消費量では、日本は 2700 万トンに留っていますが、中国は 1 億トンにのぼっており、またインドも 1 億トンに近く、こうした需要が拡大していく国に進出する必要があります。その中で、中国に最も注目しています。中国では、まだ製紙産業は成長産業であり、資本出資により地元製紙産業と提携関係を深めていきたいと考えています。今後の海外進出の本格化のために、グローバル人材の育成や法律面の勉強をしっかりとした上で、積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

鶴田会長 日本では、「紙」が昔から文化や伝統を作り、歴史の上でも非常に大切な役割を担ってきました。「紙」の文化・芸術面での重要性を、芳賀社長はどのように見えていますか。また、芳賀社長は技術系のご出身だが、「紙」の技術革新のこれからについて、どのように判断していますか。

芳賀社長 おっしゃる通り、「紙」は文化・芸術の発展に貢献してきました。最近では、ビジュアルな電子メディアが発達してきましたが、文化・芸術の伝承という意味でも、将来の良い文化、良い歴史を作っていくには、「紙」の上の表現が必要です。絶対に、「紙」は捨てられないと思います。

鶴田会長 私は、「紙」と教育の問題も重要だと見ています。「文字」ひとつ取っても、「紙」から得た印象は、ビデオなどの文字とは違っています。紙パルプ業界の

皆様は、そうした「紙」の大事さを、国民や世界に、もっと PR すべきだと思います。国民、特に子供達などに、もっと PR、自己主張すべきです。「紙」は、人類の「絆(きずな)」である、と言えます。その意味では、製紙会社は「親」で、ペーパークラフトは「子」と言えるのではないのでしょうか。今日、ここに持参したペーパークラフトの東京スカイツリーや五重塔の用紙は、日本製紙グループの白老工場や石巻工場で製造された「紙」で作られています。

芳賀社長 日本は紙の品質に対して卓越した技術力を有しています。例えば、日本の新聞は薄い、軽い紙を使っており、カラー印刷しても、裏面に出てこない。日本の新聞用紙は、両面カラー印刷も可能です。こんな高品質の「紙」を使っている新聞は、他国にはありません。印刷機で新聞用紙の巻き取りを 1,000 本使用しても、一度も紙切れしないほど安定した品質を誇っています。

また、日本の製紙会社は、海外植林にも積極的です。当社でも、ブラジル、南アフリカ、チリなど海外に 16.5 万ヘクタールの植林地を有しており、二酸化炭素の固定に貢献しています。さらには、製紙会社は大きな自家発電設備を有していることも特徴です。紙の原料であるパルプの生産過程で発生する木の成分であるリグニンを燃料にしていますが、これは立派なバイオマス燃料です。また、昨年夏からの電力不足への対応として、当社から可能な限り電力供給を行っていますが、今後はエネルギー事業として、当社グループを支える一つの柱に育成していきたいと考えています。

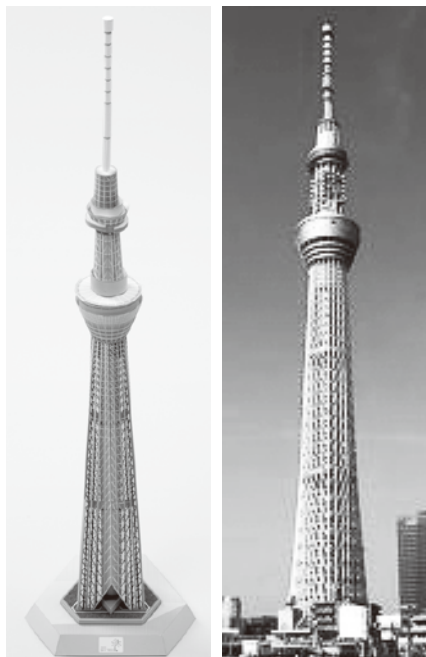
鶴田会長 長時間、興味深いお話を、ありがとうございました。私は、日本の産業が今後成長するには、世界の中の人口の多い中国やインドに、いかに食い込むか、人口の多い国のパワーをどのように自分のビジネスに使うかにかかっていると見ています。その意味でも、製紙業界には大いに期待していますし、業界リーダーの芳賀社長には、より一層頑張ってもらいたいと思います。また、世界的にも、新しい市場、製品とともに急成長しているペーパークラフトに対しても、引き続き絶大なご支援を、よろしく願います。



会員
紹介ザ・ペーパー
アーキテクト

高橋ペーパーデザイン 高橋孝一氏

ザ・ペーパーアーキテクトの第1回にご登場するのは、高橋孝一氏。数々の紙製品の設計をされ、手掛けた作品は1万点以上。ご自身を「ペーパーエンジニア」と呼ぶ。



のです。

この楽しさを知ったのは、小学生の頃。当時の少年雑誌には、さまざまな紙工作の付録が付いていました。それをつくることで、折

「ペーパーエンジニアとは紙製品の工業デザイナー。紙加工や印刷の知識を基に生産性を考え、パッケージやPOPなどのデザイン・設計をします。」

アイデアを考えるのは楽しいものです。通勤途中や家で思いつくと、頭の中で何度も練り直し、制作デスクで全紙を広げて白紙から形にしていきます。紙という素材は、多くの可能性を秘めているので50年以上この仕事をしていても飽きることはない。紙に夢中な

る、切る、貼る、組み合わせるなど、紙を加工する楽しさを味わったのです。」

高橋さんの最近のヒットは、東京スカイツリーのペーパークラフト。1000分の1モデルの作品は、スカイツリー・インフォプラザで発売され、人気商品になっている。

「エンジニアとして長年培った紙、印刷、加工の知識を紙業界に還元し、エコ素材である紙製品を更に普及させたい。又、少年少女雑誌の紙製の付録は、日本独特、日本独自のもの。付録博物館があったらいいですね。」

著書には、構造作家の教科書といわれる「紙による立体POP-役立つPOPづくりの技法と実例」(グラフィック社)や「旅するペーパークラフト」(ビー・エヌ・エヌ新社)など多数。

高橋さんの年齢を感じさせない若さの秘密は、「絶えず新しいアイデアを生み出すことと、いつも笑顔。」と白い歯をみせながらお話いただいた。

ペーパーエンジニア：高橋孝一氏
高橋ペーパーデザイン 主宰1940年 東京都生まれ
1970年 大日本印刷(株) 企画試作室退社
高橋ペーパーデザイン設立
○ポップアップ、POP、ペーパークラフト等の立案及び設計
○雑誌の付録立案及び設計制作

JPA 平成24年 第1回会員セミナー

「紙に見る日本の精神文化史」

やまね かずき
山根折形礼法教室主宰 山根一城氏

紙は、天皇家を筆頭に、将軍・大名・武士、そして商人といったヒエラルキー(階級性)を明確に示す象徴として使われました。つまり、紙は単なるモノあるいは道具としてだけでなく、権威や様式美の象徴として珍重され、文化および礼儀作法の体系を支える存在でした。その紙を折る折り形は、室町時代に生まれ六百年以上、伝えられてきています。特に上流社会での礼法でお金や品物を贈る際の包み方に秘伝がありました。江戸時代になり一般に普及して行きました。

「折り紙つき」「お墨つき」「横紙やぶり」。いずれも紙の折り形から来た言葉です。

折り紙つき。何か書類あるいは花などを相手に手渡す時、紙は一定のルールに基づいて折られていました。宮中の然るべき方からの内容の確かな贈り物が転じて、折り紙つきとなりました。お墨つき。将軍家もしくはこれに準じた大名家から奉書に書かれた朱印状など重要書類には花押が記されています。お墨つきだから権威が有り、信用性が高かった。横紙やぶり。紙には目があり、縦には破りやすいが、横には破りにくいという構造的な性質があります。常識では理解できない、無理難題をしでかす、といった意味も紙の性質から来ています。

折形は見て、形で、紙で、結び方で、色で、本数で、全てのコミュニケーションが取れます。折り方、包み方、階級ごとに明確に

使い方が決まっています。又、見掛けの品格や美しさを示すだけでなく、中身を開けられたり取り換えられたりしないような一種の鍵の役目をしたりします。こよりや水引もそうです。一旦ほどいてしまったら原型に戻せないような工夫です。その括り紐がほどかれているものの中身は信用できない、ということであったわけです。

日本の紙の折り形は、贈り物を包むという日本の優れた文化の象徴です。日本人の絆、相手を思いやる慈愛の精神、年長者を敬う尊敬の念といった日本の美質を、折り形は表しています。書の書き方、着席順、服装、贈り物など、これらは口頭、口伝、秘伝、家伝として守られてきています。破ってはいけない絶対条件、規律は実法より強い。この日本の伝統的な精神を今後も守り続けて行きたいと思えます。

2012年4月11日 13時~15時開催
会場：参議院議員会館会議室 B-103
出席者：協会会員 35名講師：山根一城氏
山根折形礼法教室 主宰1950年 生まれ
1973年 法政大学文学部卒業
米カリフォルニア大学大学院留学
帰国後、BMW ジャパン、日本コカ・コーラなど
外資系企業でマーケティング要職を歴任
2003年 山根折形礼法教室の後継者となり現在に至る

情報交換会
レポート

北越紀州製紙関東工場 見学会

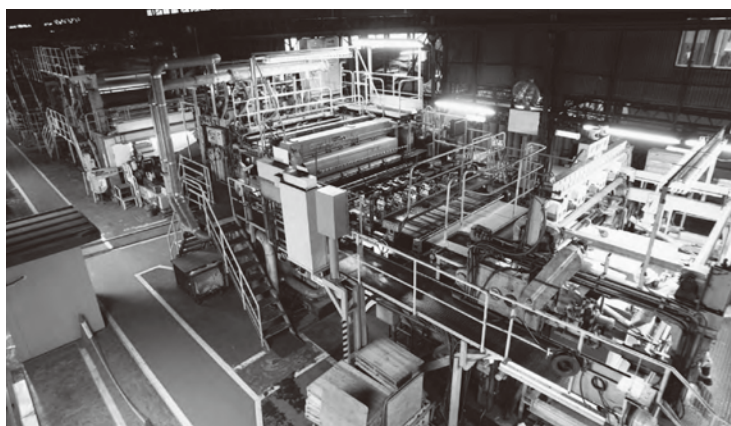
今年 2 回目の JPA 情報交換会が 6 月 12 日に開催。会員 14 名が、北越紀州製紙関東工場（市川）を訪れ、製紙工場での研修が実施されました。

北越紀州製紙関東工場（市川）の紹介・特徴

千葉県市川市、JR 市川駅から徒歩 10 分という市街地の中で、古紙を原料に高品質の板紙を生産。古紙資源の宝庫であり紙の大消費地である首都圏という立地を生かし、NEW-DV・マリコート白板紙を生産。普段から会員がペーパークラフトやパッケージに多く使用している馴染みの板紙の生産拠点です。

工場研修では、卓越した古紙再生紙生産の技術を活かし、クリーンかつリサイクルエネルギーを実現している各工程や、周辺の住宅の環境に配慮し、騒音や振動、臭気、排水などについて、無公害での地域共存を図っている様子を詳しく見学しました。また、工場でするエネルギーは、環境への負荷の少ない都市ガスを全面採用し、電力は工場内で自給自足とのことです。

会議室での研修では、板紙の構造や特徴、製造方法について、詳しく情報交換が行われ、有意義な情報交換会となりました。



写真上：北越紀州製紙関東工場 全景

写真下：北越紀州製紙関東工場 工場内部

TOPICS 「紙わざ大賞」第 22 回募集中！

紙わざ大賞
第22回

自由な発想で、紙をアートに。

作品募集

募集内容＝紙という素材を追求した「紙わざ」作品。平面・立体など形態は問いません。

出品料＝無料。応募資格＝18歳以上の日本在住者。応募期間＝紙わざ大賞（7月20日～9月10日）まで。

出品手続＝2012年8月31日（金）まで。作品提出＝2012年9月17日～19日。審査員＝日比野克彦氏 / 福田美蘭氏。

賞典＝紙わざ大賞（50万円） / 紙わざ準大賞（30万円） / 特殊東海製紙賞（20万円） / 協賛会社各賞（20万円） / 東日本大震災復興賞（10万円） / 学生賞（5万円） / 各種特別賞（3万円） / 入選（1万円）

展覧会＝各賞、入賞作品は10月に銀座十字屋ホールで開催予定の入賞作品展に展示されます。

http://www.tt-paper.co.jp/kamiwaza

今年で 22 回目を迎える「紙わざ大賞」。紙という素材を追求して、それぞれの発想で生みだされる数々の作品。”ペーパーアート “のコンペティションが今年も開催されます。創る喜びや自分の感性を発見できる、斬新な作品を募集しています。

主催：特殊東海製紙株式会社 紙わざ大賞事務局

応募作品条件：紙が使用された作品（平面、立体など作品の形態は自由。応募点数も制限がありません。出品料は無料で、個人またはグループでの応募も可能。応募資格は、16 歳以上の日本在住者に限ります）

出品手続：8 月 31 日応募締め切り

作品提出：9 月 17 日～ 19 日

審査員：日比野克彦氏 / 福田美蘭氏

賞典：紙わざ大賞（50 万円） / 紙わざ準大賞（30 万円） / 特殊東海製紙賞（20 万円） / 協賛会社各賞（20 万円） / 東日本大震災復興賞（10 万円） / 学生賞（5 万円） / 各種特別賞（3 万円） / 入選（1 万円）

展覧会：各賞、入賞作品は 10 月に銀座十字屋ホールで開催予定の入賞作品展に展示されます。

詳しくは、
<http://www.tt-paper.co.jp/kamiwaza/boshu.html>
をご参照ください。